

資料提供	
平成21年8月3日	
担当課 (担当者)	県立博物館 学芸課 (川上 靖)
電話	0857-26-8044

## 鳥取市佐治町辰巳峠から見つかった国内最古のヒラタドロムシ科昆虫の化石

鳥取市佐治町の辰巳峠(県指定天然記念物)から、ヒラタドロムシ科昆虫の化石(体長5mm)が発見され、日本鞘翅学会英文誌「Elytra」に発表しました。ヒラタドロムシ科の化石としては、国内で2例目となる発見で、国内でもっとも古い化石記録(約650~550万年前)となり、学術的にもとても貴重な発見です。この化石は、8月7日(金)から鳥取県立博物館の自然常設展示室において展示公開します。展示公開に先立ち、下記のとおり8月5日(水)に説明会を行います。

### 記

#### 1. 概 略

鳥取県立博物館収蔵の辰巳峠産の昆虫化石を、鳥取県立博物館と(財)ホシザキグリーン財団(出雲市園町沖の島1659-5)の林 成多(はやし まさかず)主任研究員(36)が共同で調査したところ、学術的に貴重な発見となるヒラタドロムシ科昆虫の幼虫の化石(ヒメマルヒラタドロムシ種群)であることがわかり、日本鞘翅学会英文誌「Elytra」に発表した。辰巳峠は「植物化石産出層」として鳥取県の天然記念物に指定されているが、今回のヒラタドロムシ科昆虫化石の発見は、化石産出地としての辰巳峠の価値を再認識するものである。詳しくは添付資料(別紙)を参照。

**【注】現在、辰巳峠は鳥取県の天然記念物であり、化石の採集などの行為は禁止されています。**

#### 2. 説明会日程

期 日：平成21年8月5日(水)  
午前10時から  
場 所：鳥取県立博物館 2階会議室  
担 当：川上 靖(学芸課自然担当副主幹)

#### 3. 展示公開

期 日：平成21年8月7日(金)午前9時から  
展示公開  
場 所：鳥取県立博物館 自然常設展示室  
自然資料紹介コーナー  
開館時間：午前9時~午後5時  
(4~10月の企画展期間中の土・日・祝日は午後7時まで)  
入館料：一般180円(20名以上の団体は150円)  
次の方は無料：大学生以下、70歳以上、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等およびその介護者  
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、国民の祝日の翌日(日、祝日の場合を除く)、年末年始(12月29日~1月3日)  
企画展期間中の休館日情報は、その都度お知らせします。



ヒメマルヒラタドロムシ種群の幼虫の化石  
(白い線は、1mm)

## 【添付資料】 鳥取市佐治町辰巳峠から見つかった国内最古のヒラタドロムシ科昆虫の化石

鳥取県立博物館

### 1. 発見の経緯と意義

鳥取県立博物館収蔵の辰巳峠産の昆虫化石を、鳥取県立博物館と(財)ホシザキグリーン財団(出雲市園町沖の島 1659-5)の林 成多(はやし まさかず)主任研究員(36)が共同で調査した(2008年10月~)。その結果、ヒラタドロムシ科の幼虫(終齢幼虫のぬけ殻)化石が確認され、マルヒラタドロムシ属のヒメマルヒラタドロムシ種群に属することがわかった。

ヒラタドロムシ科の化石は珍しく、国内で2例目、国内最古の化石記録となる(1例目は長崎県の加津佐層:前期更新世)。ヒメマルヒラタドロムシ種群が、少なくとも約550万年前(後期中新世)には日本にいた直接的な証拠になり、マルヒラタドロムシ属の進化を考える上で貴重な標本である。

辰巳峠(人形峠累層辰巳峠部層[後期中新世])は「植物化石産出層」として県指定の天然記念物である(平成14年)。これまでに約160種の植物化石が確認され、トトリカエデやウエムラカエデなど新種の数は約40種にのぼる。しかし、植物だけでなく良好な昆虫化石も産出し、今までにタツミトウゲオサムシやイナバムカシアブラゼミが新種として発見されており、今回のヒラタドロムシ科化石の発見は、化石産出地としての辰巳峠の価値を再認識するものである。

辰巳峠層は、静かな湖沼に堆積したと考えられている。ヒメマルヒラタドロムシ幼虫は上流の流水中に生息しており、この化石になったぬけ殻はおそらく流水で運ばれてきたものと思われる。辰巳峠の古環境を考える上でも貴重である。

ホシザキグリーン財団の林 成多(はやし まさかず)主任研究員(36)と鳥取県立博物館の川上 靖(かわかみ やすし)副主幹(44)により、この度出版された日本鞘翅学会英文誌「Elytra」37号に発表された:

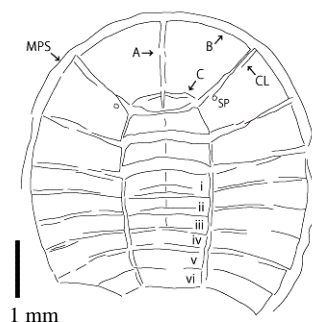
Masakazu HAYASHI and Yasushi KAWAKAMI (2009): Fossil of the Genus *Eubrianax* (Coleoptera, Psephenidae) from the Upper Miocene Ningyô-tôge Formation in Tottori Prefecture, Japan. *Elytra*, 37: 99-103.

[林 成多・川上 靖(2009): 鳥取県辰巳峠から産出した新第三紀のマルヒラタドロムシ属化石(コウチュウ目: ヒラタドロムシ科). *Elytra* 37号、99~103ページ]

### 2. ヒメマルヒラタドロムシ種群の化石および現世種について

化石: ヒメマルヒラタドロムシ種群の一種 *Eubrianax pellucidus* species-group (コウチュウ目ヒラタドロムシ科マルヒラタドロムシ属)/終齢幼虫のぬけ殻。全長 5 mm。前胸中央部に菱形の薄片を欠く【写真参照】。

現世種: ヒラタドロムシ科は、現在日本に10属23種が知られる。幼虫は円形または楕円形で(一部を除く)、水の中で生活し、おもに河川に生息する。河川の水質判定の指標昆虫としても知られている。ヒラタドロムシは「少し汚れた水」の指標とされているが、化石で発見されたヒメマルヒラタドロムシは上流の「きれいな水(貧腐水性)」に生息し、ヒラタドロムシとは共存しない。



ヒメマルヒラタドロムシ種群の幼虫の化石  
Hayashi and Kawakami (2009)より

参考【写真: 林 成多】  
現世のヒメマルヒラタ  
ドロムシの幼虫



現世のヒメマルヒラタ  
ドロムシの成虫( )  
体長は4~5 mm

### 3. 問い合わせ先

全般について:

川上 靖(鳥取県立博物館学芸課)

TEL 0857-26-8044

化石およびヒラタドロムシ科昆虫について:

林 成多(ホシザキグリーン財団)

TEL 0853-63-7111